

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 9
主査名	文 世一 ・ 京都大学経済学研究科 教授
研究テーマ	交通インフラストラクチャと地域経済に関する研究
研究の目的: 高速道路、鉄道、港湾、空港などの交通インフラストラクチャの整備は、地域間輸送費の低下をもたらし、経済活動の立地を変化させることを通じて、地域経済に多大な影響を与える。本研究では、上記のメカニズムを分析するモデルの構築と、交通インフラストラクチャの整備にかかわる代替的政策の評価を目的とする。その際、交通ネットワークの構造、輸送サービス市場の産業組織、そして複数の政府による意思決定がもたらす問題を考慮して、インフラストラクチャ政策(投資水準の選択、料金の設定)を議論するところが特徴である。 具体的な研究課題は下記の通りである。 (A) 交通ネットワークの構造とインフラストラクチャ政策 (B) 複数の政府によるインフラストラクチャ投資と料金政策に関する分析 (C) 交通政策と経済活動の立地の理論モデル開発	
研究の経過(4月～9月): 今年度上期には、下記のように6回の研究会を実施し、交通インフラストラクチャと地域経済に関する研究が紹介され、メンバーとの間で活発な意見交換が行われた。 4月24日(金) 15:00～16:30 森田忠士(近畿大学) Endogenous labor supply and international trade Zhigang Li(Shui On Land Corporate and Southwestern University of Finance and Economics) Is road infrastructure investment in China excessive? Evidence from productivity of firms 5月29日(金) 森本裕(京都大学・院) Entry regulation of aviation market in consideration of the flight schedule Kay Axhausen(チューリヒ工科大学) Price impacts of environmental services and the attractiveness of architectural form: Recent experiences 6月12日(金) 水谷淳(神戸大学) 鉄道事業におけるヤードスティック運賃規制と生産性 文世一(京都大学) Joint Provision of International Transport Infrastructure 7月3日(金) 青木高明(香川大学) 江戸期郡村史データに基づく村落ネットワークのクラスタ解析 9月4日(金) 北村友宏(神戸大学・院) Output Endogeneity in Railroad Cost Function 木俊輔(京都大学) The cost of travel time uncertainty in truck freight transportation 10月2日(金) 円山琢也(熊本大学) トリップ・チェーン型交通均衡配分の展開:長期予測と長期動学的課金問題への応用 中山晶一郎(金沢大学) ロジット・モデルの q 一般化とツァリス・エントロピー	
下期へ向けて(課題等): 10月以降も、年度内に5回の研究会を開催する予定である。	
研究メンバー(敬称略): 文世一(主査・京都大学) 森知也(京都大学) 松島格也(京都大学) 大西正光(京都大学) 金広文(京都大学) 佐藤泰裕(大阪大学) 山本和博(大阪大学) 竹林幹雄(神戸大学) 伊藤亮(東北大学) 小池敦司(神戸大学) 福山敬(鳥取大学) 寺地祐介(帝塚山大学)	